

## 継承

鎌倉市立岩瀬中学校

二年 浜野 七海

人間の体の六十パーセントは水できている。人間にとっていかに水が大切かということが分かる。地球にはたくさん水がある。広大な海は、地球表面の七十パーセント以上を覆っている。その水の約九十七パーセントが海水で、地表水は約二パーセントしかない。しかも地表水のほとんどは氷で、人間が水資源として利用している河川水などはそのうちのわずか0.00三パーセントなのだ。

世界百九十六カ国の内、たったの十二カ国しか水道水は飲めないという。先月まで住んでいたベトナムで衝撃を受けたニュースがあった。川の水で溶いたミルクを飲んだ生後三カ月の乳児が寄生虫に感染し、ショック状態に陥る事件が発生したのだ。幸いその子は治療の甲斐あ

って回復した。日本に帰って驚いたのは、小さな川できえ透き通った水が流れていることだった。もし日本の川の水でミルクを作っていたら、そこまでのひどい状態にはならなかったのではないかと考えた。ベトナムでは水道水も飲むことができないのだ。七年海外にいた私には「水道水が飲めない」ということは当たり前だった。だから、夏休みに祖母の家に戻った時、みんなが水道水を飲んでいて驚いた。日本の水道水は世界のトップレベルを誇るのだ。水道水の基準は高く、だからこそ私たちは安全に飲むことができる。

では世界の水はどうだろうか。日本では、「飲み水に困る」ということはあまり考えられないが、世界では水不足問題が深刻化し、当たり前前に清潔で安全な水が確保できない地域が少なくない。水不足が原因で紛争が起これる場合もあり、今、世界の水不足問題の解決が急がれている。

意外と思われるかもしれないが、日本は世界一の水の輸入国である。当然、単に水を輸入しているだけではない。日本は、海外から農産物をはじめ、工業製品、木材などを輸入している。その輸入品を通して、日本は大量

の水を輸入していることになるのだ。例えば、小麦一口を収穫するためには約千リットルの水が必要になる。つまり、食料を輸入するということは、水を輸入していることと同じことになるのだ。日本は水が豊富だから水資源問題とは無縁と考えがちだが、食料を輸入している限り世界の水不足の影響は必ず受ける。だからこそ、私たちはもっと水の大切さを理解し、自分の国のことだけでなく、世界の問題についても目を向けていくことが重要なのだ。

日本の水に対する技術も優秀で、世界中の新興国へ技術を指導している企業がたくさんある。ベトナムでは日本の各水道局が各市や省の水道会社と技術交流し、サポートしている。昨年私がベトナムで社会科見学に行った日本の有名食品会社は製品を作る時に川の水を利用し、不要になった水を綺麗にしてから川に流す。という活動をしていて私は感銘を受けた。このように、たった0.00三パーセントの水の大切さを理解して、水を綺麗にする活動をしている人たちが世界中にたくさんいることを知った。私はその人たちをとっても誇りに思うと共に、私にも何かできることがあれば水のことだけでなく、環

境のことなど、身近なものからでも地球に貢献できることをしたいなと思った。

前に述べたように、日本にはたくさん綺麗な川が流れている。たとえ水が綺麗でも、そこにゴミがあったら、勿体無い。だから、私たちがすべきことはまずひとつ。ポイ捨てをせずにゴミを捨てる場所に捨てること。環境に良いことをすると、私たちにも綺麗な水が届く。世界はいつだって循環しているのだ。未来の子供達のために綺麗な水を守り、継がないでゆく、これは今子供である私たちの使命だと思う。